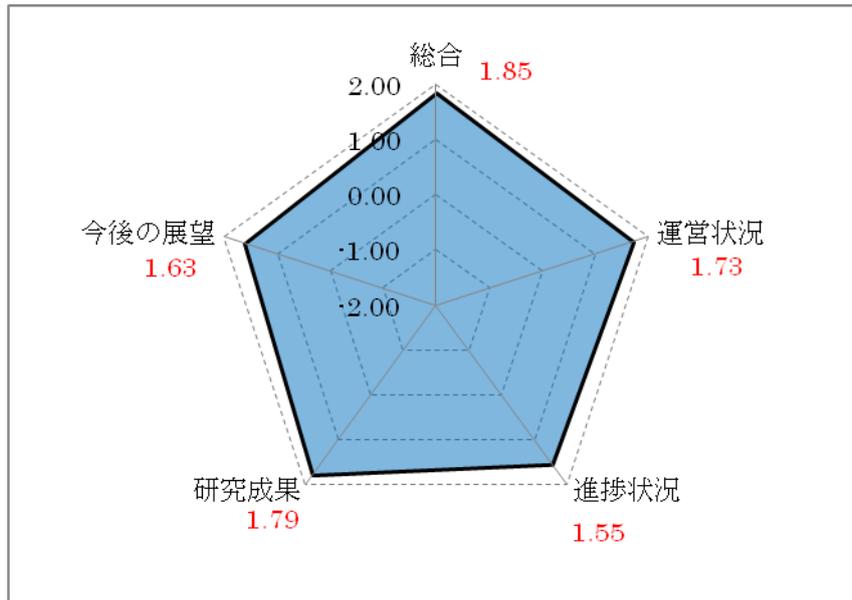


島根大学プロジェクト研究推進機構平成23年度研究プロジェクト評価

研究プロジェクト：重点研究部門 S-グリーン・ライフナノ材料プロジェクト

	総合	運営状況	進捗状況	研究成果	今後の展望	得点の平均
得点	1.85	1.73	1.55	1.79	1.63	1.71
評価	A	A	A	A	A	A



(評価コメント)

全般に順調であり、総合評価は高い。評価者全員がほぼ同様な高評価をコメントしており、安定感のある進捗状況である。本プロジェクトリーダーは、これまでも重点プロジェクトを取りまとめて期待以上の成果を挙げて来ており、その経験が今期の重点研究にも生きていると思われる。目標は高く、かつ明確であり、その目標に照らして研究成果・社会的アピール・外部資金獲得等のいずれも期待を上回る。理工・医連携についても実質的に機能している。自己評価では、6つの研究項目中3項目がA評価、3項目がB評価であり、客観的で妥当な自己分析がなされている。それらを裏付ける研究成果については、初年度にも関わらず関連論文数が56編、学会発表が130件といずれも多く、また、特許出願についても6件（準備中を含む）は期待以上の成果である。

問題と思われるところは特にないが、次年度以降に更なる発展を期待しての要望・コメントも寄せられたので、以下を参考にされたい。

- ・組織が大きいため、プロジェクトリーダーを支援する体制が必要である。内容も総花的であるので、相互連携と集約にも期待したい。時期リーダーの育成も併せて検討していただきたい。
- ・「S-ナノ匠」プロジェクトから発展した部分および新たに加えられた内容が分かるようにしていただき、「方向性の継承」と「転換・発展」を明確に区別されたい。
- ・専門的観点からは、期間内の実用化が心配される内容もある。例えば、ZnOはバンドギャップが大きいため、これを太陽電池に使用するためには、難題の低バンドギャップ化が必須である。効率のよいエネルギー変換材料にするためには大きなブレイクスルーを要する。
- ・p型ZnOの作成は他機関ではほとんど失敗におわっており、また、表面プラズモンを有する有機系太陽電池の高効率化も国内外で多く試されているので、それらとの比較を行い、再現性や精度の高い作成方法等についてはもっと詳しい検証が必要である。